

令和6年度

試験名:私費外国人留学生入試

【情報学群 知識情報・図書館学類】

区 分	標準的な解答例又は出題意図
小論文	<p>問題 1</p> <p>問 1</p> <p><出題意図> 論理的思考力、理解力を見る。</p> <p><解答例> 有罪が真実のときに無罪と判断してしまうことや、無罪が真実のときに有罪と判断してしまうこと。(45字)</p> <p>問 2</p> <p><出題意図> 論理的思考力、理解力を見る。</p> <p><解答例> ②に入る数値:1 ②に入る数値が導かれる理由:n 回の判断のうち、正しい判断を行う場合は最大で n 回であり、$n/n=1$ となるため。 ③に入る数値:0.5 ③に入る数値が導かれる理由:有罪と無罪の判断をランダムに行ったとき、著者の意見によると正しい判断を行う確率は $1/2$ に収束するため。</p> <p>問 3</p> <p><出題意図> 論理的思考力、理解力を見る。</p> <p><解答例> 多数決の結果が正しいケース番号:5、6、7、8 多数決の結果が正しい確率を求めるための計算式: $3 \times 0.62 \times (1-0.6) + 0.63$ 計算式が導かれる理由: 多数決の結果が正しいケースは、(i)2対1で正しい判断をする側(正しい側)が多数となる場合と(ii)全員が正しい判断をする場合がある。(i)は正しい側が2人なので0.62となる。他方、誤った判断をする側は、正しい側の余事象として$(1-0.6)$となる。その上で、(i)に当てはまるケースは、ケース5からケース7の3つのケースがあるため、これらを掛け合わせた $3 \times 0.62 \times (1-0.6)$となる。(ii)では、全員が正しい判断をすることから0.63となる。このケースは、ケース8のみである。最終的に、(i)(ii)は同時に起こらないことから、両者を足し合せて、$3 \times 0.62 \times (1-0.6) + 0.63$ が導かれる。</p> <p>問 4</p> <p><出題意図> 論理的思考力、理解力、表現力、発想力を見る。</p>

<解答例>

情報化社会においては、インターネットを利用することで、多くの情報を即座に入手することができる。これにより、迅速な意思決定や住民の合意形成が可能になるという利点がある。一方で、情報化社会では、情報環境によって入手できる情報に差があり、加えて、情報環境の整備には経済的負担が伴うため、情報格差や情報弱者が生まれてしまう。その結果、適切な情報を持たないまま意思決定に参加せざるを得ないという欠点がある。この欠点を克服するためには、インターネット回線の利用を無料化するなどして、情報の格差を小さくすることが必要である。(255字)

問題 2

問 1

<出題意図>

論理的思考力、理解力を見る。

<解答例>

このプロジェクトでは、ボランティア市民が温度センサーを自家用車に付けて、地域コミュニティ内を移動しながら気温を収集する。(60字)

問 2

<出題意図>

論理的思考力、理解力を見る。

<解答例>

従来の調査は専門家が土地の表面温度を計測していたのに対し、本プロジェクトはボランティア市民が空気中の温度と湿度に着目して、人々が感じる体感温度により近いデータを得ている点が異なる。(90字)

問 3

<出題意図>

論理的思考力、理解力を見る。

<解答例>

- 猛暑の軽減や子供の健康対策に役立つという、大勢のボランティアが参加したいと思う動機付けがあること。(50字)
- 自家用車にセンサーを取り付けるだけで参加できるという参加への障壁の低さがあること。(42字)
- 地域内で自分たちが必要とする箇所を観測範囲に加えられるという市民コミュニティが主体性を持つこと。(50字)

問 4

<出題意図>

論理的思考力、理解力、表現力、発想力を見る。

<解答例>

例えば、渡り鳥など、多くの地域にまたがって生息する生物を追跡して観測し、絶滅が危惧される種の確認や保護活動のための情報を提供するプロジェクトが考えられ

る。自分が住む地域の生物に関心のある市民が広く参加することで、より広範な地域や様々な環境でのデータを迅速に収集することができ、専門家だけの調査では観測が難しい場所や時間帯のデータも補完することができる。また、スマートフォンを使ったデータ収集と集約のような工夫をすることで、観測データをリアルタイムで共有したり、研究者や他の地域の市民たちと情報を共有したりでき、調査自体の精度を高める成果も期待できる。(275字)